

定期作況報告

平成 1 5 年 9 月
(9 月 2 0 日現在)

北海道立北見農業試験場

1 . 気 象 経 過

8 月下旬：最高気温は平年並、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より極めて少なかった（平年比8％）。日照時間は平年並であった（平年比93％）。

9 月上旬：最高気温は平年並、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比51％）。日照時間は平年並であった（平年比109％）。

9 月中旬：最高気温は平年並、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より少なかった（平年比29％）。日照時間は平年並であった（平年比103％）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は、気温は平年よりやや低く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並であった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

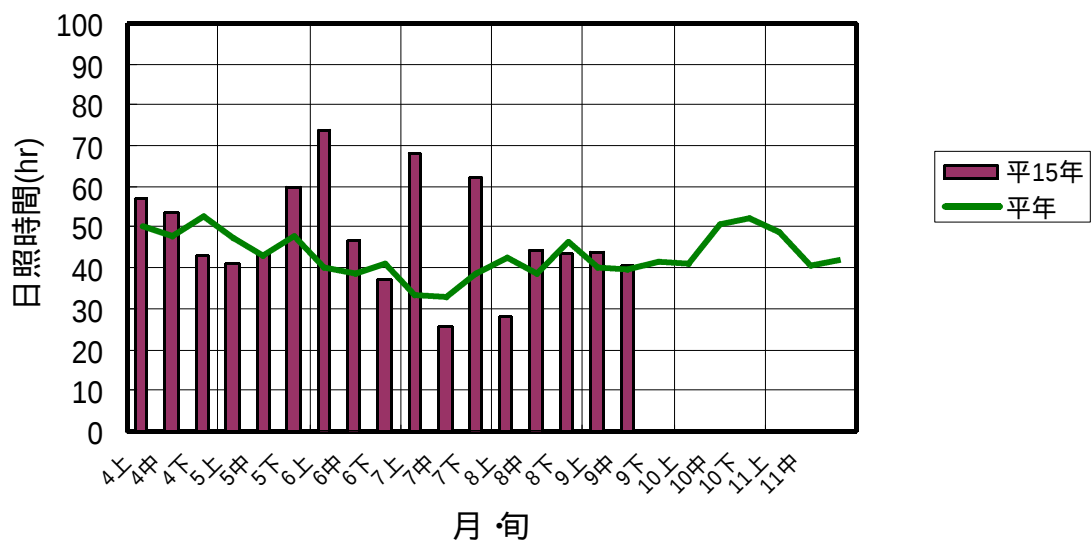
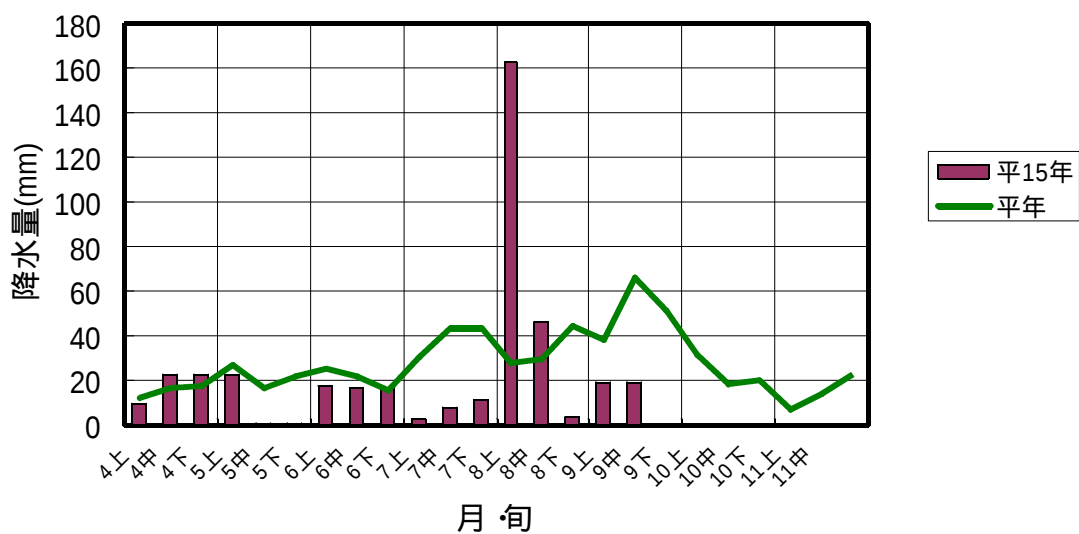
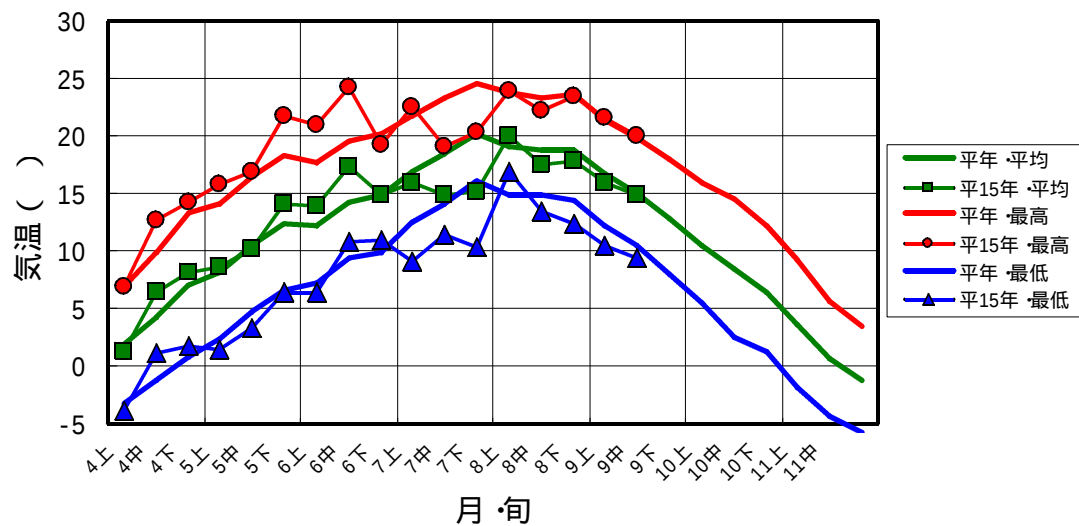
気 象 表

項 目 月 旬	平均気温（ ）			最高気温（ ）			最低気温（ ）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
8 月下旬	17.7	18.8	1.1	23.5	23.5	0.0	12.4	14.5	2.1
9 月上旬	15.9	16.8	0.9	21.6	21.5	0.1	10.5	12.3	1.8
9 月中旬	14.8	15.0	0.2	20.0	19.9	0.1	9.4	10.5	1.1
平 均	16.2	16.9	0.7	21.7	21.7	0.0	10.8	12.5	1.7

項 目 月 旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
8 月下旬	3.5	44.4	40.9	43.5	46.6	3.1
9 月上旬	19.5	38.2	18.7	44.0	40.2	3.8
9 月中旬	19.0	66.2	47.2	40.6	39.4	1.2
合 計	42.0	148.8	106.8	128.1	126.2	1.9

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき大麦(二条大麦) 作 況：やや不良

事 由：登熟期間が平年より長く、倒伏の発生がなかったため、千粒重は著しく重く、整粒歩合はやや高かった。しかし穂数、稔実粒数が平年をやや下回ったため、子実重は平年比96%であった。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品 種 名	成熟期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	8. 8	8. 6	2	76	87	11	6.3	6.3	0	557	604	47

品 種 名	稔実粒数(粒/穂)			子実重(kg/10a)			千粒重(g)			整粒歩合(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
りょうふう	19.8	21.1	1.3	356	370	14	51.6	42.4	9.2	94.6	91.8	2.8

注) 平年値は前7か年中、平成9年、12年を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作 況：やや不良

事 由：本年の登熟期間は平年より6日間長く、千粒重は平年より重かったが干ばつの影響により穂数が少なかったことから子実重は平年比96%であった。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品 種 名	成熟期(月・日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	8.14	8.14	0	78	85	7	8.2	8.2	0.0	421	493	72

品 種 名	子実重 (kg/10a)			千粒重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	360	376	16	42.2	39.0	3.2

注) 平年値は前 7 か年中、平成 9 年、11 年を除く 5 か年の平均。

3) とうもろこし 作 況：やや不良

事 由：8 月下旬以降の気温がやや低く推移しており、登熟は平年よりやや遅れていると推察される。稈長が平年より 13cm 短く、茎葉重がやや低下する可能性がある。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品 種 名	稈 長 (cm)		
	本年	平年	比較
ディア HT	216	229	13

注) 平年値は前 5 か年の平均 (平成 10 年に供試品種を変更したため)。

4) 大 豆 作 況：やや不良

事 由：この 1 か月間の気温は概ね平年並に経過し、莢の伸長、子実の肥大は進んだ。そのため、8 月の調査時には莢として計測されない幼莢が多かった「トヨホマレ」の着莢数は増加したが、両品種ともに平年に比べ着莢数は約 10% 少ない。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

5) 小 豆 作 況：不良

事 由：この 1 か月間の気温は概ね平年並に経過し、莢の伸長、子実の肥大は進んだ。そのため、着莢数の平年との差は先月よりやや縮まったが、依然として平年に比べて約 20 ~ 25% 少ない。

以上のことから目下の作況は不良である。

6) 菜 豆 作 況：金時 平年並、手亡 やや良

事 由：8 月下旬・9 月上旬の平均気温がやや低かったため、金時の成熟期は平年に比べて 5 ~ 8 日遅れた。着莢数は金時が平年並、手亡は平年より約 20% 多い。

以上のことから目下の作況は金時が平年並、手亡はやや良である。

種類	品 種 名	成熟期（月・日）			主茎長・草丈（cm）			主茎節数（節）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ	-	10.4	-	65.4	63.0	2.4	11.6	11.0	0.6
	トヨホマレ	-	10.8	-	64.5	60.2	4.3	12.3	11.8	0.5
小豆	エリモショウズ	-	9.26	-	45.5	53.4	7.9	11.8	13.1	1.3
	サホロショウズ	-	9.21	-	21.1	44.8	23.7	9.5	10.9	1.4
菜豆	大正金時	9.15	9.7	8	37.0	43.6	6.6	5.9	5.3	0.6
	雪手亡	-	9.25	-	58.9	58.4	0.5	11.6	9.4	2.2
	福勝	9.16	9.11	5	38.7	46.5	7.8	5.8	5.4	0.4

種類	品 種 名	分枝数（本/株）			着莢数（個/株）		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	トヨコマチ	4.6	5.2	0.6	52.7	59.1	6.4
	トヨホマレ	4.9	4.3	0.6	60.9	68.6	7.7
小豆	エリモショウズ	3.1	3.1	0.0	35.6	44.7	9.1
	サホロショウズ	3.4	3.8	0.4	33.3	45.3	12.0
菜豆	大正金時	4.2	3.6	0.6	17.6	18.2	0.6
	雪手亡	6.2	6.6	0.4	39.2	31.8	7.4
	福勝	4.3	3.1	1.2	17.6	16.5	1.1

注）平年値は、大豆は前7か年中平成10年、12年を除く5か年、小豆は前8か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年、菜豆は前8か年中平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

7）ばれいしょ 作 況：不良

事 由：「男爵薯」は7月の干ばつの影響で枯凋期が著しく早まり、平年値より20日早い8月21日となった。それに伴って上いも重は4割程度平年値を下回っており著しい減収となった。でん粉価は今年度は平均気温が低めに推移していることから1ポイントほど高くなった。「コナフブキ」も干ばつの影響を受け、上いも重及びでん粉重は平年値より3割程度下回っている。

以上のことから目下の作況は不良である。

品 種 名	枯凋期（月・日）			上いも重(kg/10a)			でん粉価（％）			でん粉重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男 爵 薯	8.21	9.10	20	2767	4593	1826	16.6	15.3	1.3	-	-	-
コナフブキ	-	10.7	-	3386	4626	1240	22.9	22.6	0.3	742	997	255

注）平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成9年、14年を、「コナフブキ」は平成9年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

8）てんさい 作 況：やや良

事 由：降水量は平年より少ないものの、適度な降雨があったため圃場が乾燥することもなく、また日照時間も平年並に推移したため、根の肥大は順調である。

以上のことから現在の作況はやや良である。

栽培法	品 種 名	草丈(cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	59.4	63.5	4.1	31.0	30.7	0.3	31.7	31.5	0.2
		59.1	60.6	1.5	31.9	31.3	0.6	34.0	34.4	0.4
直播	モノホマレ	63.5	65.9	2.4	32.9	28.8	4.1	29.5	29.1	0.4

栽培法	品 種 名	茎葉重(g/個体)			根重(g/個体)			根中糖分(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ ストーク	898	811	87	795	753	42	15.82	15.70	0.12
		1011	847	164	750	727	23	16.07	16.06	0.01
直播	モノホマレ	1017	862	155	682	633	49	14.62	14.99	0.28

注）平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成10年、14年を、「ストーク」は平成10年、13年を、直播は平成10年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

9）牧 草 作 況：-

事 由：2番草収穫時の作況は不良であった。3番草の収穫調査は10月上旬に予定している。

10) たまねぎ 作 況：良（参考）

事 由：倒伏期は平年より大幅に早まったが、枯葉期は平年より若干早まった程度であった。8月下旬および9月上旬はやや低温に経過し、降水量が少なかったため、白斑葉枯病の発生はほとんど見られなかった。「改良オホーツク1号」は9月9日、「北もみじ」および「スーパー北もみじ」は9月18日にそれぞれ収穫を終えており、一球重は平年の値を大きく上回っている。

以上のことから目下の作況は良（参考）である。

品 種 名	倒伏期（月・日）			枯葉期（月・日）			一球重（g）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
スーパー北もみじ	8.20	9.04	15	9.16	9.17	1	275	186	89
北もみじ	8.16	8.26	10	9.14	9.17	3	239	179	60
改良オホーツク1号	8.11	8.18	7	9.05	9.07	2	222	180	42

注）平年値は固定ほ場（火山性土）の成績、本年は沖積土の成績のため、「参考扱い」とする。前7か年中、「スーパー北もみじ」は平成12年、13年を、「北もみじ」および「改良オホーツク1号」は平成10年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。